

	提 案 名	提 案 団 体 名	
		代表者氏名	所 属
1	サイクリストの聖地うつのみや	宇都宮大学 行政学研究室	
		滝田 祥子	宇都宮大学 国際学部
		指導教員 氏 名	中村 祐司

## 1. 提案の要旨および目標

自転車は交通手段として、環境に優しく利用ができる手段として世界的に見直されおり、現在では、健康維持やスポーツとしての人気も高まっている。今や自転車は単なる移動のための乗り物ではなく、新たなライフスタイルの象徴となっている。これは世界的なブームとして広がっており、特にヨーロッパでは、日本に比べて早くから自転車の積極的な利用が始まっている。日常の足としてだけでなく、スポーツやレクリエーションの一貫としても利用されている。その背景として、自転車競技大会が市民の間近で行われていることにより、市民の自転車への関心度が高まり、自転車を利用する市民が増加し、それによって政府の自転車政策が進んだと言える。

日本でも自転車をスポーツやレクリエーションとして楽しむ人が増加している。実は、宇都宮市では世界最高峰の自転車ロードレースである「ジャパンカップサイクルロードレース」が開催されており、自転車をスポーツやレクリエーションとして楽しむ人々にとっては知名度が高く、開催地周辺にはサイクリングに適した自然豊かなコースが充実している。そうした事を背景に宇都宮市では自転車スポーツを楽しむ市民が増加しているだけでなく、県外からもサイクリングをしに訪れる人が多い。

そこで、本提案では宇都宮市が「サイクルスポーツのまち」としての魅力に溢れていることに着目して、より多くの市民がサイクルスポーツを楽しみ、また市外の人々にとっても「サイクルスポーツのまち」として知ってもらい訪れてもらうことで、自転車をスポーツとして楽しめるまちを目指す。

具体的には「ジャパンカップサイクルロードレース」を盛り上げるための提案とサイクリングコースを紹介するマップを作成することを提案したい。

## 2. 宇都宮市におけるサイクルスポーツの現状の分析と課題

### 1) 宇都宮市におけるサイクルスポーツの現状

#### ① 「ジャパンカップサイクルロードレース」の開催とサイクルスポーツ愛好者の増加

宇都宮市では、1990年に自転車ロードレースの世界選手権大会が当市の郊外にある宇都宮市森林公園で開催されたのを機に、1992年からそこで使用された同公園内のコースが整備され、毎年「ジャパンカップサイクルロードレース（以下「ジャパンカップ」）」が開催されている。このレースは、現在、アジアにおける最高峰の自転車ロードレースに位置づけられ、世界の第一線で活躍している選手が参戦するため、市内外を問わず、サイクル

スポーツ愛好者から絶大な人気を得ている。会場が市街地から離れているにも関わらず、6万人の観戦者が訪れ、大会は熱気に包まれる。宇都宮市が昨年実施したアンケート<sup>1</sup>によると、県内から訪れた観戦者は全体の**25.5%**と前年の調査の**14.1%**を上回り、会場までの交通手段も自転車の割合が増加し、再観戦を望む観戦者も増加している。

また、地元のサイクルスポーツの愛好者等にインタビューしたところ、市街地から自転車で観戦に来る市民や県外からの観戦者も増加しており、特に県外からの観戦者は自転車を持ち込み、当日自転車で会場に向かう人が多く見受けられ大会前日に宿泊する人も少なくないという。

図表 1 「2008 Japan Cup Cycle Road Race 会場アンケート集計結果」

再観戦願望

	必ず来たい	出来れば来たい	その他
2007年	57.6%	39.6%	2.8%
2008年	66.6%	33.1%	0.3%

観戦者居住地

	栃木県	東京都	その他
2007年	14.1%	23.2%	62.7%
2008年	25.5%	23%	51.5%

会場までの交通手段

	自家用車	電車	自転車	その他
2007年	73.7%	17.1%	8.4%	0.8%
2008年	58.7%	21.2%	17.8%	2.3%

出典：ジャパンカップサイクルロードレース実行委員会  
『2008 Japan Cup Cycle Road Race 会場アンケート集計結果』(2008年10月実施)を参照

こうした背景から、地元宇都宮市民でサイクルスポーツを楽しむ人は多く近年増加していると考えられる。また、ジャパンカップの会場の森林公園とその周辺がサイクリングに適したコースになっている。特に、森林公園を起点として日光方面へ向かうルートは「聖地」として親しまれ、休日になると多くの愛好者がサイクリングを楽しみおり、交通量は極めて少なく、風光明媚で、初心者から上級者まで楽しめるコースである<sup>2</sup>。更に市街地か

写真 1 2009年 JAPANCUP の様子



出典：筆者撮影による  
(2009年10月25日)

<sup>1</sup> ジャパンカップサイクルロードレース実行委員会 『2008 Japan Cup Cycle Road Race 会場アンケート調査結果』2008年

<sup>2</sup> 「BLITZEN 宇都宮プロレーシングチーム」取締役砂川氏(2009年10月30日)をはじめ、複数の地元のサイクルスポーツ愛好者への筆者インタビュー調査による。

らそのコースへ向かうには、安全な抜け道があり、比較的交通量が少ない。

実際に筆者は 11 月のある休日にそのコースを通ってみたが、休日にもかかわらず交通量が少なく、市街地とは異なり平坦な直線道路が続く場所が多く、豊かな自然も広がっている。初心者でも気軽にサイクリングが楽しめるものであった。また、信号機も少ないので信号待ちをする時間が省け、長距離を走りたいサイクリストにとっても快適だと感じた。

## ②「BLITZEN 宇都宮プロレーシングチーム」の事業

「BLITZEN 宇都宮プロレーシングチーム」(以下「BLITZEN」)は、2008 年に設立された地域に密着したプロ自転車ロードレースチームで、地元の自転車愛好者に人気があり、宇都宮のサイクルスポーツの盛り上がり大きく貢献している。プロロードレースへの参加のほかに、自転車を中心としたスポーツ教育活動も行っている。今年の 7 月には、サイクルピクニック (NPO 法人栃木スポーツコミッション主催、BLITZEN 特別協力) で、が行われ、距離別、レベル別に 3 つのコースに分け、交通マナーや自転車の良さを知ると同時に、宇都宮の観光や自然の良さを体感することができた。また、今年から定期的に栃木県内で子ども向けの自転車教室、「ウィーラーズスクール」を開催し、交通マナーや自転車の安全な乗り方の指導を行っている。「ウィーラーズスクール」とは、自転車の操作技術の向上やサイクルスポーツを楽しめる環境を通じて、競技人口の拡大を目指し、サイクリストの養成の基盤になること目的としており、全国各地で実業団チームの選手などが指導にあたり、定期的に行われている。

写真 2 自転車教室の様子



出典:下野新聞「SOON」自転車プロ選手安全な操作指南 (2009 年 2 月 19 日配信)

写真 3 サイクルピクニックの様子



出典:下野新聞「SOON」自転車で自然満喫—宇都宮でサイクルピクニック—(2009 年 7 月 5 日配信)

写真 4「BLITZEN」のメンバー



出典:2009 ジャパンカップサイクルロードレース 出場チームより

## ③競輪場の事業

また、宇都宮競輪場も本市におけるサイクルスポーツの盛り上げに一役買っている。今年になって競輪場がリニューアルされたが、競輪でも新規ファンの獲得のため様々な施策を行っている<sup>3</sup>。場内の環境整備を重点的に行い、競輪場に隣接している八幡山公園から場

<sup>3</sup> 以下は、2009 年 10 月 17 日宇都宮市経済部公営事業所副所長枝村氏への筆者インタビュー調査による。

内のレストランやエントランス広場への行き来を可能にし、場内のシアターホールの貸し出しも始めた。また、今年から「BLITZEN」の選手にも無料でコース内での練習ができるようにするなど競輪場を開放している。

年に一度、自転車に乗る事が出来ない小学生を対象に自転車教室を開催し、人気を集めている。しかし、講師を静岡の競輪学校から招いて指導をしているため、講師不足の問題は避けられない。そこで今年から「BLITZEN」の選手を講師として招き指導してもらう事を検討している。

写真 4 競輪場入口の様子



出典：筆者撮影による(2009年10月17日)

写真 5 競輪場内部の様子



出典：筆者撮影による(2009年10月17日)

以上のことから宇都宮市は、「ジャパンカップ」の開催や地域に密着したプロレーシングチームの存在、また自転車のスポーツとしての認識が徐々に高まりつつあることなどから考えると、サイクリング環境が充実していると言える。そして何よりも快適なサイクリングコースがあることで、サイクリングスポーツを楽しむ市民が増加し、市外からもサイクリング愛好者が宇都宮市森林公園周辺の快適なサイクリングコースを何度も訪れ、サイクリングを満喫している。

## 2)宇都宮市におけるサイクリングスポーツの課題

先に挙げたように、宇都宮市には様々な分野において自転車をスポーツとして楽しめる魅力があるにもかかわらず、いくつかの課題があると思われる。

第一に「ジャパンカップ」についてである。大会には県外からも観戦者が多く、認知度も高い「ジャパンカップ」ではあるが、宇都宮市民の認知度は未だに低い。大会の前日には、オリオンスクエアでオープニングイベントが開催され、会場はファンで埋め尽くされる。オープニングイベントでは子ども自転車教室の開催や各界の著名人によるトークショー、そして大会に出場するチームのプレゼンテーションが行われる。特にプレゼンテーションは、選手から直接コメントを聞くことができるためイベントの中でも一番人気がある。しかし、盛り上がりを見せているのはオリオンスクエアのみで、通りやその周辺にはオープニングイベントの告知もなく、イベントが開催されているのかどうか分かりにくい。ま

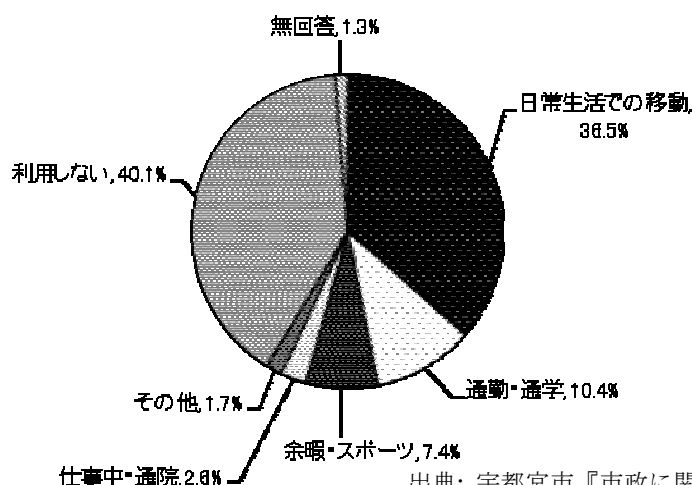
た、イベントが開催されている時間帯は、通りにある飲食店などはすでに閉店しており、オープニングイベント会場のみ通りから隔離されたような空間になってしまっている状態である。

また、「ジャパンカップ」会場に自転車で向かう観戦者が年々増加しているが、会場までアクセスする際に詳しい表示が街中にないため迷い、会場に行く時間がかかってしまうことも<sup>4</sup>。自転車で会場に向かう観戦者がアクセスしやすいように、交通の面からも政策を考える必要があるだろう。

第二に、宇都宮市は一步郊外へ足を踏み出せば快適なサイクリングコースがあるにもかかわらず、そのコースは一部のサイクリストしか利用していないため、PRしていくことによってサイクリングを楽しみたい市民も利用できるようにしていくべきだと考える。サイクリングに快適だと言われているコースは日光市まで続いているため、ある程度自転車を乗りこなせるサイクリストであれば、自転車で日光市を観光することも可能になる。特に観光シーズンは、自動車の渋滞を避けるためにも自転車で周辺の景色を楽しみながら日光市を訪れたほうがより満喫出来るだろう。

第三に根本的な問題として、市民が自転車をスポーツやレクリエーションとして捉える認識が低いことがある。宇都宮市がまとめた『市政に関する世論調査結果概要—第42回 平成21年度—』の自転車利用のアンケートによると、「日常生活の移動」が36.5%、「通勤・通学」が10.4%と全体の約半分を占める一方で、「余暇・スポーツ」の目的で自転車を利用する市民はわずか7.4%しかいなかった。この結果の背景には、「ジャパンカップ」の認知度が低いこと、サイクリングコースの存在が知られていないことがあると考えられる。

図表2 「自転車利用の目的」



出典：宇都宮市『市政に関する世論調査結果概要—第42回 平成21年度—』7.自転車利用の目的についてを参照して筆者作成

<sup>4</sup> 以下は、2009年10月24日にオリオンスクエア内で行われたオープニングイベントの際に行った来場者への筆者のインタビュー調査による。

### 3. 施策事業の提案として～サイクルスポーツの聖地うつのみやを目指して～

#### 1) 「ジャパンカップ」のブランド力の向上

「ジャパンカップ」をより盛り上げていくことで宇都宮市の「サイクルスポーツのまち」としてのブランド力を高めることが必要だ。そのために、第一にオープニングイベントをまちの活性化につながるように工夫することを提案したい。オープニングイベントは先述したように、盛り上がり不足、改善点は多いと思われる。自転車のイベントにも関わらず、自転車専用ブースが狭く、数も少ない<sup>5</sup>。そのため、来年度からは自転車のブースを拡大するべきだ。オリオンスクエアという市民に身近な場所で行うイベントのため、スポーツ用自転車の試乗会や、ファッションなウェアの展示等を行い、子どもや一般市民にも分かりやすく、足を運びやすくする必要がある。また、オリオン通り全体としても、オープニングイベント終了時には閉店している店が多く、盛り上がり不足のため、各店舗と協力し終了後 1 時間程度は店を開けておくことや、横断幕やポスターの数を増やすといった体制を整えることも重要だ。

次に、「ジャパンカップ」の開催に当たり、会場までのアクセス、特に自転車によるアクセス性を高める提案をしたい。近年では会場まで自らの自転車で訪れるファンが増えており、県外からの観戦者はそれを電車で運ぶことが多い。そのため、大会当日と前日の 2 日間、鉄道会社と連携して「自転車専用車両（サイクルトレイン）」<sup>6</sup>を運行することを提案したい。サイクルトレインは欧州で普及しており、近年では日本でもイベント等<sup>7</sup>に合わせ運行する中小私鉄が増加している。そのため、「ジャパンカップ」開催時にサイクルトレインを運行することで、首都圏からの観戦者増加を見込める。

第三に、これに関連して、県外から自転車で宇都宮を訪れたファン向けに、自転車を持ち込みやすい宿泊施設の提供を行う。具体的には、「ジャパンカップ」に訪れた宿泊者が多く利用するであろう宇都宮駅～東武宇都宮駅付近のホテルと協力し、自転車を止めておけるスペースの設置や、周辺施設と連携し、自転車を持ち込んだ客に特典(宇都宮で有名な餃子屋のクーポン等)を与える。これによって、周辺のホテルや協力する施設の宣伝にも繋がりを、自転車によるまちづくりの一環となる。

最後に、県外から「ジャパンカップ」を見に来たファンは、宇都宮の地理的知識に乏しく、中でも自転車で訪れたファンは森林公園までの道が分かりづらい。これらのファン向けに宇都宮駅から森林公園間に看板や標識を設置する。この標識により、毎年「ジャパンカップ」を訪れるファンが自転車で行きやすくなる上、大会以外の日にも自転車で森林公園周辺のコースを利用する自転車愛好者の増加に繋がるだろう。後に、森林公園までの快適なルートを「聖地への抜け道」として示しているのを参照してほしい。

<sup>5</sup> オープニングイベントに訪れていたファンへの筆者インタビュー調査(2009年10月24日)による。

<sup>6</sup> 自転車を鉄道車両内に持ち込むことが出来るサービスのこと。

<sup>7</sup> 2008年に、サンポート高松で開催された自転車の祭典「サイクルタウン香川自転車ワールドフェスタ2008」の開催にあわせ、運行された。

## 2)サイクリングマップで聖地を攻略

これまでも述べてきたように、宇都宮市にはサイクリングに適したコースが数多く存在しているにもかかわらず、その存在は一部のサイクルスポーツ愛好者に「聖地」として知られるにとどまり、市民にはほとんど知られていない。そのため、筆者がこれまで取材した中でサイクリングの「聖地」として相応しいと感じたコースを、サイクリングマップとしてまとめた。

具体的なマップ作成にあたり、宇都宮の地理的条件を活かした快適なサイクリングコースを設定する。宇都宮市は「ジャパンカップ」が開催される森林公園のコース以外にも、地理的条件からサイクリングを楽しめる環境が整っており、休日でもロードバイクに乗って余暇を楽しむ市民の姿が見受けられる。設定するコースは、**JR** 宇都宮駅をスタート地点とし、小来川周辺までの道のりとする。まず、市街地から森林公園付近までの道を「聖地への抜け道」として設定した。さらにその先のコースを道路条件や目的に応じて「歴史探索コース」、「田舎道満喫コース」、「聖地小来川周回コース」の**3**つに分け、誰でも気軽にサイクリングを楽しめるようにする。

### 聖地への抜け道

このルートを提示した背景には、これまで「ジャパンカップ」を観戦に行くファンや、森林公園付近でサイクリングを楽しむ市民が、大通りを通るというケースが多かったことが挙げられる。しかし、大通りは交通量が非常に多く危険を伴うため、サイクリングに適しているとは言い難い。その点、市街地から森林公園へ至る道の中には、あまり知られてはいないが交通量が少なく安全な抜け道が存在している。そのため、これまで一部のサイクリストにしか知られていなかったその抜け道を正式なルートとして提示することで、市民が安全にサイクリングを楽しめる環境を提案したい。

詳しい抜け道としては、宇都宮駅東口を出発後、県道 1 号線を市役所方面に進み、中央郵便局を通過、さらに栃木銀行本店を通過した後、**2**つ目の信号を右折し材木町通りに入る。その後 1 つ目の信号を左折し、そのまま鹿沼街道（県道 4 号線）を直進する。**JRA** 競走馬総合研究所を通過し、2 つ目の信号を右折する。そのまま直進すると、右手に並行して走る道路が見えてくる。突き当りで道路が二手に分かれているのでそれを左に進む。2 つ目の十字路を左折して直進し、東北自動車道の下を通過、その後も直進する。右手に城山中学校を通過後の交差点で大谷街道（県道 **70** 号線）と交わるまでが抜け道である。

### ①歴史探索コース（宇都宮駅東口→宇都宮森林公園または大谷資料館付近）

当コースでは、初心者でも挑戦しやすいように比較的なだらかな道路を設定した。また、ゴールには日本最古の石像である大谷観音や戦没者の霊を弔うために建てられた平和観音などの歴史的建造物や、当市において有名な大谷石の資料館が存在するため、サイクリングがてら気軽に観光を楽しむことができる。

大谷資料館付近へ行く場合は、「聖地への抜け道」を走破後、県道 70 号線と交わる道を右折した後、1 つ目の信号を左折する。そのまま大谷街道を直進すると大谷観音や平和観音付近に到着する。大谷資料館は更にその道のすぐ先にある。

森林公園へ行く際は、「聖地への抜け道」終了後、県道 70 号線と交わる道を左折し、2 番目の信号を右折し森林公園通りに入る。目印となるのは、右手に見えるセブンイレブンである。森林公園通りに入りしばらくすると公園内に到着する。森林公園は、「ジャパンカップ」のコースも含まれており、起伏が激しく体力も消耗しやすいが、選手の気分を味わうことが出来るためお勧めだ。

## ②田舎道満喫コース（宇都宮駅東口→宇都宮市森林公園→落合直売所）

当コースの魅力は、ゴールに設定した落合直売所（日光市、JAかみつが落合農産物直売所）やのどかな道のりである。落合直売所では、地元で採れた農産物やそれらを使用した米粉パンなどの食品が販売されており、田舎ならではの味を楽しむことができる。また、トイレも完備されているため、休憩所としても利用できる。

行き方としては、「聖地への抜け道」終了後、森林公園へ立ち寄り、その後、県道 70 号線を日光方面に進む。途中の文挾駅付近は交通量が多いため注意が必要だが、それ以外の道はのどかな風景が続き、文挾駅を過ぎるとすぐに落合直売所に到着する。

## ③聖地小来川周回コース（宇都宮駅東口→宇都宮市森林公園→落合直売所→小来川周回）

当コースが言わば「サイクリストの聖地」である。歴史探索コースが初級、田舎道満喫コースが中級とすると、ここは上級者向けのコースだと言える。小来川周辺は、山に囲まれており、他のコースとは比較にならないほど起伏が激しいが、交通量は極めて少ないため、本格的にサイクリングを行うことができる。コース内には、サイクリストがよく立ち寄るといふ、通称「水飲み場」と呼ばれる「湧き水」があり、休憩所としても親しまれている。また、黒川に沿って走る箇所もあるため、四季折々の絶景を満喫することができる。付近には観光名所は少ないが、お食事処として蕎麦屋が多く存在してあるため、隠れた名店を探すこともサイクリングの楽しみと言えるだろう。

コースの概要としては、田舎道満喫コースのゴールとなっている落合直売所前の T 字路を左折した後、道路が二手に分かれている所でまた左折する。この周辺に湧き水がある。「小来川文挾石那田線」（県道 149 号線）、「鹿沼日光線」（県道 14 号線）、「山久保平ヶ崎線」（県道 150 号線）、「宇都宮今市線」（県道 70 号線）を一周し、落合直売所付近に戻る。



図表 3 「聖地攻略マップ」



出典：Mapion 地図データを使用し筆者作成

①大谷資料館



②平和観音



③森林公園



④落合直売所



⑤湧き水



⑥小来川の絶景



出典：写真は筆者撮影による(2009年11月3日)

## おわりに

今回「ジャパンカップ」を中心にサイクルスポーツを通したまちづくりを提案していく中で宇都宮市郊外の重要性に気付かされた。これまで、まちづくりと言えば主に中心部を対象としたものが多く、郊外にはあまり目を向けられてこなかったが、宇都宮市の郊外には地域を更に活性化する要素が数多く存在している。中心部と郊外が一体化した政策を行っていくことで、より当市の発展に結びつくだろう。

□参考資料

下野新聞

<http://www.shimotsuke.co.jp/news/tochigi/region/news/20090219/112988>

<http://www.shimotsuke.co.jp/news/tochigi/sports/blitzen/news/20090705/169618>

毎日新聞 「自転車でまちづくり宇都宮」 2009/07/11 掲載

「くらしナビ 都心移動に共用自転車」 2009/10/28 掲載

朝日新聞 「生活 貸自転車でCO<sub>2</sub>減らせ」 2009/10/08 掲載

週刊ダイヤモンド「特集 自転車が熱い!」 2009/09/26

宇都宮市『市政に関する世論調査結果概要—第42回 平成21年度—』

ジャパンカップサイクルロードレース実行委員会 『2008 Japan Cup Cycle Road Race 会場アンケート調査結果』 2008年